

授業概要

アメリカ合衆国では、19世紀の中ごろに大陸横断鉄道の敷設工事が行われましたが、これに従事した主な人々は、中国大陸からやってきた「苦力」と呼ばれる中国人たちでした。また、「苦力」は、同時期に、キューバのシュガープランテーションにおいても、黒人奴隷と肩を並べて働いています。なぜ、中国人がアメリカの鉄道敷設工事の現場やキューバのシュガープランテーションで働いていたのでしょうか。それを解く重要な鍵が、植民地主義といわれるものです。今日、世界中で人種や民族をめぐる差別や排外主義の問題がクローズアップされています。この問題を考える場合に、決定的に重要な事柄が植民地主義の問題なのです。他国を植民地支配した歴史を持つ日本もこの問題と無関係ではありません。近代社会の展開は植民地主義と不可分であり、今日民主主義と呼ばれるものの発展の裏面には、他者の搾取と収奪の歴史が存在します。この講座においては、この問題を軸に南北アメリカを考察しつつ、そのことが我々の生きる現代社会にどのような影響を及ぼしているのかを、様々な映像資料や図版を使用して体系的に講義します。

授業計画

第 1 回	植民地主義についての一般的考察ーアジアとアメリカを結ぶ線
第 2 回	アメリカ州の地理的概念
第 3 回	差別と排外主義を考察するための基本概念
第 4 回	アメリカ合衆国における民族統合概念
第 5 回	所有と人権の問題ーマサチューセッツ湾植民地について
第 6 回	南北アメリカとカリブ海における奴隷制
第 7 回	アフリカと奴隷貿易
第 8 回	アメリカ合衆国における奴隷制の展開
第 9 回	「香港」とは何か
第 10 回	白人至上主義と K.K.K.
第 11 回	Black Lives Matter (BLM) と構造的差別の問題
第 12 回	ホワイトネス理論と「日本人性」
第 13 回	ヘイトスピーチ（差別扇動）と民主主義を考える
第 14 回	ワシントンの議会襲撃と香港の「民主化デモ」を結ぶ線
第 15 回	「近代化」をどのように考えるか
第 16 回	期末テスト

到達目標

南北アメリカとアジアやアフリカの関係を軸に、植民地主義を歴史的に考察し、それが、我々が生きる現代社会に及ぼしている影響を考察し、その克服がなぜ重要であるかを学ぶことを目標とします。

履修上の注意

本講座の受講に際しては、必ずしも地域文化論Ⅰの受講を要件としません。

履修：積極的に取り組む意思が求められます。出席・遅刻等の扱いは、大学の規定に準じます。

授業：日本語で行います。適宜映像資料も取り入れます。また、本講義は、個人的な政治的見解を披歴する場ではなく、歴史学会の研究成果にもとづいた情報の提示と考察を行う場であることを念頭に受講すること。

予習・復習

クラス内で適宜指示します。授業内における取組も加味します。大学既定の出席回数を満たさない場合は、期末試験受験資格を喪失します。

評価方法

学期末筆記試験（満点 100 点）

テキスト

教科書は特に使用せず、印刷資料を適宜配布しますが、参考として以下の書物を挙げておきます。

- ・書名：『近代世界と奴隷制ー大西洋システムの中で』
- ・著者名：池本幸三・布留川正博・下山晃
- ・出版社名：人文書院
- ・出版年 (ISBN)：1995 年 (409-51038-X C1022 P2987E)